

令和 7 年度 議会運営委員会行政視察報告書

- 1 参加委員
 (委員長) 長谷川由美
 (委員) 花田慎 (委員) 藤村優佳理 (委員) 木山耕治 (委員) 新倉真二 (委員) 岡崎進
 (委員) 水島誠司 (委員) 菊池雅介 (委員) 山崎広子
- 2 欠席委員
 (副委員長) 藤本恵祐
- 3 視察日時
 令和 8 年 1 月 2 7 日 (火曜日) 午後 2 時 0 0 分から午後 3 時 3 0 分まで
- 4 視察先
 広島県呉市
- 5 視察事項
 (1) 議員定数について
 (2) 議会基本条例の検証について
- 6 視察概要

	(担当 水島 誠司)
視察先選定理由	議会運営委員会では議会運営の効率化や議会基本条例に基づいた議会運営について取り組んでいることから広島県呉市の議員定数に至ったプロセスと議会基本条例の定期的な検証体制や運用の取り組みについて何うため視察先に選定した
内容	<p>(1) 議員定数の削減について</p> <p>呉市議会では、令和 9 年 5 月の次期改選より、定数を現在の 32 名から 30 名 (2 名減) とすることを決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●議論の背景：人口減少 (20 万人割れ) と、近隣自治体 (東広島市等) との人口・定数バランスの比較。議長からの諮問に基づき、議会運営委員会 (議運) で集中的に議論。 ●学識経験者の活用：2 名の大学教授を参考人として招致。「統計学的な回計分析に基づき削減を提案する立場」と「多様性の観点から慎重な立場」の両面から意見を聴取し、議論の客観性を担保した。 <p>(2) 議会基本条例の検証について</p> <p>議会基本条例の検証について、条例第 30 条に基づき、「一般選挙後、速やかに検証を行う」ことが義務付けられており、これが形骸化を防ぐ仕組みとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●検証手法 (3 段階評価) <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切に運用されている 2. 概ね適切だが、更なる取り組みが必要 3. 取り組みが必要 ●検証成果：各会派から検証シートを提出してもらい、議会運営委員会で全 31 条を 1 条ずつ精査。結果「災害時の議会 BCP 策定」や「オンライン委員会の導入検討」となった。

<p>考察</p>	<p>ICT・オンライン化：オンライン委員会の開催に向けた条例整備を完了。現在は「まずはやってみよう」のフェーズで、模擬委員会などを実施している。</p> <p>報酬議論との切り分け：かつて定数・報酬・費用弁償をセットで議論して頓挫した反省から、今回はまず「定数」を先行して決定。その後、現在は30年間据え置かれている「議員報酬」について、物価高騰やなり手不足の観点から議論を開始している。</p> <p>●質疑応答の要点</p> <p>Q. 反対派の意見をどう集約したか？</p> <p>A. 地域代表性の懸念は最後まで根強かったが、通信技術の発達（デジタル化）による補完や、他都市との比較データを提示することで、最終的に「32対3（議長除く）」という圧倒的多数で可決に至った。</p> <p>Q. スケジュールが非常にタイトだが？</p> <p>A. 過去に議論が伸びて頓挫した経験から、議運委員長が「いつまでに決める」というマスタースケジュールを強く意識してハンドリングした。</p> <p>●茅ヶ崎市への示唆と所感</p> <p>検証の義務化：呉市のように「改選後必ず検証する」という条文規定は、改革を止めないために極めて有効である。</p> <p>客観的データの活用：定数議論において、単なる主観ではなく大学教授による回計分析（面積・人口・財政力等の多角的な式）を用いた点は、市民への説得力（パブコメ対応等）を持たせる上で非常に参考になった。</p> <p>改革の進め方：「論点を絞り、一つずつ確実に決着させる」呉市議会の手法は、多岐にわたる課題を抱える本市議会にとっても学ぶべき点が多い。</p>
------------------	--